

## 令和 7 年度 学校経営報告

都立杉並工科高等学校

校長 阿部 裕一

重点目標	当初の目標数値等	達成数値	成果と課題
学習指導の充実 (生徒の授業に対する満足度の向上)	①生徒の授業満足度 ②学習環境の充実 ③資格指導等の充実(英検、数検指導、工業系資格取得の指導等)	①学年によって結果に一定の差は見られるものの、全体としては79%の授業満足度となった。 ②自習室の活用と朝学習が定着し、学習習慣の向上につながった。 ③英検週間・数検週間を設け、計画的かつ集中的な指導を実施。工業系資格についても補講等を通じて継続的に取り組み、一定の成果を上げた。	①授業では、生徒の学力段階によって満足度に差が見られた。進学を意識した学びの充実と基礎理解が不十分な生徒への支援の両面から、授業内容の改善が求められる。 ②自習室の活用は広がりつつあるが、定着度には改善余地がある。今後は活性化と学習の質向上、放課後支援の強化に取り組む。 ③英検週間・数検週間を実施し、英検3級以上15名、数検準2級以上16名の結果となった。工業系資格は延べ102名である。次年度は計画的な学習支援と受験機会の安定化を進め、上位級の獲得と持続的な成果を目指す。
進路希望の実現 (キャリア教育の充実と進路希望の実現)	①進路内定 100% ②キャリア教育の充実 高大連携、オープンキャンパス等への参加	①進路内定率は今年度も100%となり、多くの生徒が早期に進路を確定した。 ②大学へのキャンパス訪問を実施し、多くの生徒が参加して進路意識の向上や大学進学への関心を高める機会となった。(キャリア教育の取組満足度83%)	①進路内定については粘り強い指導の結果、今年度も100%となった。今年度は就職希望56%、進学44%であった。昨年より進学希望者が増えた。 ②進路指導では大学進学への意識づけを重視し、法政大学・東京工科大学へのキャンパス訪問を実施し、大学の学びや研究に触れる機会を設けた。また、11月には大学教授による特別講義を開講し、生徒は希望に応じて講座を受講した。これらの取組により、進学への関心と意欲が高まった。
安心・安全な教育環境	①自転車ヘルメットの着用率の向上 ②遅刻者数減少の指導 ③中途退学者の減少 ④教育相談の充実	①ヘルメット着用率は年度当初は95%を超えていたが、夏休み以降は低下が見られた。 ②正門指導により遅刻者は減少したが、継続的な改善が求められる。 ③中途退学者数3名、転学者数12名 ④SC活用数および保健室での相談件数が増加し、支援機会の利用が広がった。	①年度当初の着用率は95%を超え、安全意識や自分の命を守る行動への理解が一定程度見られた。夏休み以降は着用率が下がったため、安全行動を継続する意識を育てる取り組みが今後の課題となる。 ②毎朝の正門指導により、遅刻者の抑制にも一定の効果が見られた。遅刻防止の行動を安定して定着させるためには、継続的な指導と意識づくりが必要である。 ③進学への不安から進路変更を希望する生徒が見られたため、入学初期から学校理解を深める機会づくりや、進路選択に関する情報提供をさらに充実させる必要がある。 ④SCによる全員面談や教員からの相談も増加傾向にあり教育相談は定着してきた。また保健室の活用も増加し、生徒も増加し、教育相談の機会も広がった。
特別活動・部活動の充実	①学校行事等の満足度の向上 ②部活動の加入率の向上 ③地域との連携事業等の充実	①体育祭については満足度が高かった一方、文化祭では満足度がやや低めに推移した。(体育祭、文化祭行事併せた満足度67%)修学旅行など他の行事は総じて高い満足度(90%以上)を示した。 ②部活動の加入率は7割近くと悪くないが活動実績が低い。 ③地域小学生の体験教室(年2回)、高齢者スマホ教室の実施(年2回)	①文化祭では、一部の取り組みにおいて満足感にばらつきが見られ、結果として全体の満足度の低下につながった面がある。今後は、すべての参加者が公平に活躍できる機会を確保し、主体的に参加したくなるような工夫を図ることが求められる。 ②部活動加入率は66%となり、柔道部・電子工作部・科学部・軽音楽部など一部の部活動では活発な取り組みが見られた。一方で、加入率の伸び悩みや途中退部もあり、全体としてはやや低調な状況である。今後は、生徒が継続して参加し、幅広く活躍できる場を広げることが求められる。 ③地域小学校を招いた体験教室は好評で、自治体と連携した高齢者向けスマホ教室でも生徒のサポートが高く評価された。一方で、継続的な実施に向けて内容や体制をさらに充実させ、生徒がより主体的に活躍できる機会を広げていくことが今後の課題となる。
広報活動の充実と募集対策	①学校説明会等の充実：参加者数の増加 ②HPやXの更新回数の増加 ③中学校訪問や外部での学校説明会の参加 ④募集倍率：1.0倍以上	①校内での学校説明会、体験入学等への参加者は750名を超えた。 ②HPの更新回数、Xへの投稿回数も250回以上。閲覧件数も昨年よりも大幅に増加した。 ③中学校訪問79校、外部での説明会112組以上 ④定員の充足率は47%と低調	(成果)校内説明会・体験入学には750名を超える参加があり、HP更新やXでの発信強化によって閲覧数も大きく伸びるなど、学校への関心は確実に高まった。また、中学校79校の訪問や外部説明会112組以上に加え、法政大学・スウィンパーン工科大学も説明会に参加し、大学進学を意識した発信を強化できた。 (課題)多面的な広報活動により認知は広がったものの、出願への結びつきは弱く、定員充足率は47%にとどまった。今後は、説明会後の個別フォローや進路面の魅力の伝え方を見直し、志願意向につながる広報の質を高めていく必要がある。
学校運営の改善	①校内研修の活性化 ②教職員のライフワークバランス	①服務事故防止研修(年間3回以上)をはじめ、外部機関による模試分析会(年間3回)や教育相談職員研修(年間3回以上)など、多岐にわたる校内研修を計画どおり実施できた。 ②時間外勤務の縮減と働きやすい職場環境の実現	①服務事故防止研修をはじめ、外部機関による模試分析会や教育相談職員研修など、多岐にわたる校内研修を計画どおり実施し、授業改善・生徒支援・服務意識の向上に取り組む基盤を整えることができた。一方で、研修成果を学校全体の改善につなげる工夫が今後求められる。 ②時間外勤務の削減に向けた取り組みを進めたことで、毎月80時間を超える職員数は減少傾向にあり、働き方改善に一定の成果が見られた。一方で、週末の部活動指導や生徒引率に加え、教材研究のために遅くまで業務を行う教員もおり、負担が特定の職員に集中する状況は依然として残る。今後は、業務の標準化や部活動運営の見直し、教材研究時間の確保など、さらなる改善が求められる。